

巻頭言

Dainiがめざす新たなSSHの世界
～STEAM教育と高大接続連携～

熊本県立第二高等学校長
光永 幸生

本校のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業は、第V期先導的
改革型が昨春採択され、いよいよ新たなフェーズに入りました。SSH事業20
年目を迎え、第IV期までの活動、成果を振り返りつつ、新たなステージに立
つという責任を痛感しています。第V期の1年目の活動を御高覧いただき、
貴重な御意見を賜ることができれば幸いです。

今回、第V期の研究課題として「特異な才能を発見・開発・開花するイノベー
ション人材の育成システムの構築と自走化」を掲げました。
本校ではこのイノベーション人材を次の3つの資質・能力を備えた人材と定義
しました。

- ① 科学者に必要な哲学的思考や倫理観を兼ね備えた高度な科学的探究力
- ② 独創性と創造性に富んだ課題発見能力
- ③ 変化する社会に対応する応用力

そして、この研究課題に取り組むために、次の2つの研究テーマを掲げま
した。今回の第V期の大きな柱です。

【テーマ1】 課題研究を中核とした独自のSTEAM教育システムの開発と普及

この独自のSTEAM教育システムを「STEAM-D (STEAM with Design)」
と呼び、文理の枠に捉われない本質的な問いに触れるための授業・講義及
び講演会を実施していくこととしました。本質とは、物事の核心部分で存在意
義の源となるもの、考えや概念を根底から支えているものと捉え、教育内容と
して哲学的思考等についてのプログラムを導入してみました。これらの思考を
身につけ、より高度な科学的探究力を備えた人材の育成を今後も目指してい
きます。

**【テーマ2】 高度な専門性と独創性・創造性に富んだ人材育成のための
高大接続研究**

ハイレベルな科学技術人材育成のために、令和3年9月に結成した熊本
サイエンスコンソーシアム（KSC: 現在8校が加盟）と県内大学との間で、
育成する人材像の共通理解を形成し、高校・大学・大学院と長期に渡るカ
リキュラム開発及び評価システムを構築する必要があります。大学入試制度
や単位互換等、高大接続研究を進展させ、イノベーション人材の育成シ
ステムの自走化につなげたいと考えております。それと同時に、KSCを通じて
SSH校あるいは理数系の学科・コースをもつ高校とで抱える課題を共有し、
それらの解決に向け取り組んで参りたいと考えております。

昨年4月から、高校でも新たな学習指導要領が始まりました。探究的学
習活動を一層深めていくことが求められると同時に、学びの本質とは何か、
授業や評価に伴う定期考査等の改善が求められています。そのために、本
校は特色ある理数科、美術科、普通科3学科の連携をより一層推進し、学
びの楽しさと感動溢れるSSH校を目指して日々精進して参ります。

最後になりましたが、日頃から御支援御指導を賜っております文部科学
省、科学技術振興機構、本校の運営指導委員、熊本県教育委員会、KS
C加盟の各高校並びに連携の各大学、及び各関係諸機関の皆様へ深く感
謝申し上げ巻頭のごあいさつといたします。

